

## 第八回酔鴻忌

2018年1月28日、日曜日。

ここ数年、酔鴻忌は天候に恵まれ、京都の冬と思えない穏やかさで山道を上がっていくと汗だくになったものだった。

しかしここへ来て、ついに京都らしい極寒を味わうこととなった。

13:30、例年どおり、嵐山渡月橋のたもとに集合。お天気は雪の予報も出ておりみんなヒートテックだの極暖だので完全武装したと言い合い、極寒の京都を楽しんでいるかのよう。

北森さんのお兄様から、お漬物と、銘菓おたべのミニバージョン「こたべ」をいただく。かわいらしいパッケージは女子好み。

いつもありがとうございます。

待ち合わせ組がそろったところで大悲閣に向けて出発。

雪がちらちら舞いはじめ、いつもに増して足元に注意しつつ山道を登る。

大悲閣に到着する頃にはぼかぼか暖かくなってきたものの、雪は少しずつ強くなってきた。

全員がそろい、住職による読経、全員で唱える般若心経、お焼香と続く。

そして、皆様が持ち寄ったお酒、お菓子などを広げ、一次会が始まる。

新潟の河本さんご提供の「甕覗（かめのぞき）」、かめからひしゃくでくみあげる役を秋永さんが引き受けてくださり、次々と手が伸びる。

飲みやすくおいしいお酒♪

そうしている間に、雪は激しさを増していく。

今回の初参加は5人。

昨年9月の三軒茶屋「味とめ会」で初参加し、まんまと北森教信者にされたシャーロキアン杉浦さん。

味とめご常連岩嶋さん。

福西さんとそのお連れ様。

静岡県から車で参加の柴さん。（お酒が飲めずにお持ち帰りとなる）

参加予定だった木村さんはインフルエンザで断念。

（わかります、その無念さ。私も1年前、インフルエンザで不参加だったから）

そしていつものお楽しみ、じゃんけん大会へ突入！

なんと前回のじゃんけん大会で勝ち取った本を、「読み終わったので」と提供された方が！すばらしい。人柄がわかりますね。

今回の一番人気は、やはり装ひ堂さんの特注のブックカバーの工藤バージョン5点。

ワインレッドの生地にヨークシャーテリアの精緻な刺繍（アップリケ）、なんとネームタグには「Kou Kitamori」の文字が！

がぜん張り切る面々。激しい戦いが繰り広げられ、勝ち取ったのは河本さん、佐藤さん（あおいさん）、出口さん、うふふ、わたくしも。（もう一人はお兄様だったのでしょうか？）

全員へのプレゼントは恒例の秋永さんからの「北森鴻全仕事」。

いつも「ネタになるようなことがあったら教えて」と言いながら絶妙なテーマをみつけてしまう秋永さん。

今回のテーマは「味とめを知っていますか」。

東京三軒茶屋のすずらん通りにある古き良き昭和の香り漂う大衆割烹「味とめ」。

昨年2017年9月で営業を休止し、2019年2月の再開に向けて現在工事中。

その最後の姿が堂々の表紙を飾る。

「無鉄砲で傲岸不遜で後から蹴り倒してやりたくなるような」北森さんが過ごした味とめ。

北森さんがご存命だったら、何を感じたろうか。

熱い戦いのおかげか、雪もやみ、全員で記念撮影。

そして二次会へ向かうべく下山する。

今回の二次会は「ゆずの庭河原町店」。安心の美幸ちゃんセレクト。

和気あいあいと過ごす時間はあっという間に過ぎる。

北森さんについて語り、作品について語り、二度と出会えない新作に思いを馳せ北森さんにお会いしたことがない方々は（私も含め）、叶えられなかったことを悔やみ、京都の夜は更けていく。

二次会が終わると遠方の方々が帰り始め、近場の方と宿泊組が三次会へとなだれ込む。

三次会はいつもの木屋町「samasama」。

もうこの頃になると、誰が何を話したのか定かではなく。

いつの間にか四次会へ。

いつものカズさん行きつけの木屋町のバー「Prestige」。

なぜか落ち着く雰囲気。いつかここで五山の送り火が見たいと思う。

第8回酔鴻忌もいよいよ終わり、またみんな日常に戻っていく。

また来年と約束し、次回を楽しみに帰っていく。

それが今回までであった。

2018年5月29日、カズさんから聞きたくなかったお知らせがあった。

酔鴻忌の終了。酔鴻思考の終了。

カズさん、秋永さん、美幸ちゃんの活動は完全にボランティア。

それぞれの生活がある中、特にカズさんの精神的なご負担は

計り知れないものだったと思う。

区切りの時期が来ることは仕方ないかもしれない。

3人の方々には感謝してもしきれない。

酔鴻忌でお会いしたすべての皆様に感謝しつつ。

2018年6月10日

TAMA